

平成26年度しまね地球温暖化防止活動大賞受賞者一覧

【学校部門】

賞	大 賞	優 秀 賞	優 秀 賞
氏 名	雲南市立吉田小学校	出雲市立檜山小学校	奥出雲町立高田小学校
代 表 者	校長 三嶋 亮	校長 足立 賢治	校長 内藤 満久
所 在 地	雲南市吉田町吉田1060-1	出雲市多久谷町182-1	仁多郡奥出雲町高田52-2
活動の概要	<p>3・4年生が中心となり以下の省エネ活動を行った。</p> <p>①児童が苗を植えて、「ゴーヤやあさがお」の観察を行った。職員室前にゴーヤカーテンが出来て、快適な環境づくりに役立った。児童が職員室の内外の温度を計測・記録しグリーンカーテンのエコ効果に気づいた。学校のホームページにもアップして家庭や地域にも紹介した。</p> <p>②校舎1階廊下にエコ活動掲示板を設置し、平成23年度からの3年間の水道や電気の使用量や金額をグラフ化し掲示。増減要因を考えるようにした。また手洗い場やトイレにポスターや標語を掲示し、全校に節水や節電の意識啓発をおこない、家庭にも紹介した。</p> <p>③学校の太陽光発電のデータ調査、エアコンの温度設定、冬期の室温管理（蓄熱暖房）にも取り組んでいる。平成19年4月1日～</p> <p>④その他、環境保全への意識を高めるため、次のような活動を行った。</p> <p>地域講師を招き、吉田川のホタルの生態や環境学習を行い、ホタルの飼育をしている。</p> <p>また「斐伊川・神戸川流域マップ」に参加して、吉田川の河川調査や生き物調査をした。</p> <p>吉田小学校と吉田中学校と一緒に「クリーン作戦」を展開し、校区内のゴミ拾いや草取りをしたり、地域ボランティアとともに校庭、校舎やプール周辺の草取りを毎年行っている。</p>	<p>環境にやさしい学校生活を目指し、自分たちでできる電気・水道・紙などの資源の使用量を減らす取り組みをするとともに、資源ごみの分別に努めている。</p> <p>①平成25年10月から、全校で「<u>晴れの日節電</u>」に取り組んだ。晴れの日には、給食の準備開始とともに、各教室や職員室で電灯を消す。取組を重ねるにつれ、「先生、消し忘れていたよ。」と、天候に合わせて判断し行動する児童が増えてきた。給食時間から開始し、その後の昼休みと掃除時間も消灯するので、晴れの日には約1時間半の節電ができている。「<u>学校版エコライフチャレンジしまね</u>」により、電気、ガス、灯油、水道の使用量を記録しているため、この節電の取組によって、電気使用量は平成24年の同時期より最大1割以上減らすことができたことがわかり、活動の励みになっている。</p> <p>②平成22年度から、資源や環境への意識を醸成するため、児童会活動としてペットボトルのキャップを集め、発展途上国の子どもたちにワクチンを送る「エコキャップ運動」に参加している。学校の昇降口に、「800個で一人の命が救える」「ペットボトルキャップで、世界の子どもたちに笑顔をおくろう」とメッセージを書いた、児童の手作りのキャップ入れの箱を置いて回収したり、授業公開日等を利用して、保護者や地域の方を巻き込んだ取組もおこなった。</p>	<p>環境問題について、意識し実行するよう、学校全体で取り組みを行った。<u>全校生徒11人の小規模校であるが、学校をあげて地球温暖化問題に熱心に取り組んでおり、町としても高く評価している。</u></p> <p>①校舎周りには、ヘチマ、ゴーヤ、アサガオ、フウセンカズラなどを植えグリーンカーテンを作りエコ活動を実践したほか、花の栽培をとおして環境美化に努めている。</p> <p>②調理実習(クッキング活動)で食事を作った日は、家庭からマイ箸を持参することになっている。</p> <p>③学校版エコライフチャレンジしまねに参加し、電気、ガス、灯油、水道の毎月の使用量について記録を行って増減を確認している。</p> <p>また、アルミ缶、ペットボトルキャップ、牛乳パックのリサイクル活動を行い、児童の物を大切にすることを育てている。</p> <p>そのほか、全校で通学路のクリーン活動を行うこと、河川の汚染の実態調査とその要因について考えることにより、環境保全について意識するよう取り組んでいる。</p> <p>これらの取り組みは、年次的に活動内容が充実してきたもので、過去2年は全ての活動を実施している。<u>小規模校であることから、無理のない計画を組むことで、エコ活動、環境保全に全児童が楽しく取り組むことができている。</u></p>